

幼稚園から小学校への移行に関する 発達心理学的研究 III

進野 智子・小林 小夜子

A Study of the Transition from a Kindergarten to a Primary School III

Tomoko SHINNO・Sayoko KOBAYASHI

目 的

幼稚園から小学校への移行に関連する要因として幼児・児童、教師および親の3要因が考えられる。しかし、従来の研究では、これら3要因のうち幼児・児童および親を研究対象にしていた(飯島, 1990)。さらに、移行期の問題について子どもから直接に情報を収集している研究は非常にまれであった。幼稚園から小学校への移行においては、その当事者である幼児・児童および教師の双方を少なくとも研究対象とする必要がある。そこで筆者らは、幼児・児童および教師の移行に関する認識と問題点を解明し、幼稚園から小学校への移行における不適応発生のメカニズムを検証するために、幼児・児童および教師の2者間に焦点を当て、横断的かつ縦断的研究を継続している。

筆者らは、幼稚園および小学校の教師が、幼児・児童をどのように捉えているか、また移行をどのように把握しているかを質問紙法によって明らかにしてきた(進野・小林, 1998, 小林・進野, 1998, 進野・小林, 1999a)。さらに、幼稚園と小学校の両教育機関に勤務した経験のある教師を対象に移行に関する認識と問題点について質問紙法により調査してきた(進野・小林, 1999b)。

本報告は、移行する主体である幼児・児童が自分自身の移行をどのように感じているかを面接法によって明らかにしようとするものである。今回は前回の予備調査(小林・進野, 1999)を基に面接項目を整理し、さらに、幼児・児童の性差による検討、幼児・児童が第1子であるか否かによる観点、および幼児・児童の移行の捉え方の差異について横断的比較を行う。

Bronfenbrenner は、生態学の視点から発達と環境を捉えた(1979, 磯貝・福富, 1996)。彼が構想した環境システムは、第1の層の環境システムはマイクロシステム、第2の層はメゾシステム、第3の層はエクソシステムであり、第4の層はマクロシステムであった。筆者らは、Bronfenbrenner の理論に準拠しながら、マイクロシステムを①物理的・地理的条件、②人的条件の2つの視点から、把握しようとした。さらに、発達を考慮した「発達の主導的活動」を付加し、③活動条件を加えた。

このように、Bronfenbrenner のマイクロシステムから、メゾシステムさらにエクソシス

テムへと発達していく子どもの移行にともなう変化を子どもの視点に立って明確にしておくことを目的とする。

方 法

対象児：幼稚園年長児57人（男児28人，女児29人）および小学1年生117人（男子59人，女子58人）。手続き：面接法による聞き取り調査。面接者と対象児が対座し，会話を録音した後文章化した。面接は，個々の共通質問項目について尋ねた後，子どもの回答によってはその答えを明確にするために，さらに質問が続けられるというように行われた。質問項目：結果に記載の項目（実際に実施した質問項目については，資料の欄を参照されたい）。面接者：筆者たちおよび訓練された大学生10人。面接場所：N幼稚園およびN小学校内特別室。面接時期：1999年2月～3月。

結果と考察

幼児・児童の回答は，カテゴリー分析によって整理された。結果の整理に際しては，Bronfenbrenner (1979, 磯貝・福富, 1996) の分析基準である①物理的・地理的条件（地理的位置，行動空間の広さと配置，設備，活動時間）と②人的条件（構成人数，集団内位置および受容役割，基地としての機能，対人関係のスタイル，選択の主体性，その他）の二大カテゴリーの他に，筆者らは③活動（遊び，学習，給食，行事，その他）のカテゴリーを加えた。①物理的・地理的条件としては，地理的位置，行動空間の広さと配置，設備，活動時間を指標としている。②人的条件としては，構成人数，集団内位置および受容役割，基地としての機能，対人関係のスタイル，選択の主体性，その他を指標としている。③活動としては，役割遊び（たとえば，忍者ごっこ，三輪車で遊ぶ，お母さんごっこなど），学習（たとえば，ドッチボールができる，漢字の勉強，など），給食（たとえば，学校給食，お弁当，など），行事（たとえば，遠足，運動会，など），その他を指標としている。

カテゴリー分析に際しての筆者間の一致率は91.4%であった。

結果は，1. 幼児の面接結果，2. 児童の面接結果，3. 幼児と児童の比較の視点から整理された。

統計処理に関しては，幼稚園と小学校の似ているところ（類似点）と幼稚園と小学校の違うところ（相違点）の2項目については，F検定を使用し，他はカイ2乗検定を行った。

1. 幼児の面接結果

1-a 幼児の性差に関する検討

幼稚園児が，小学校に対する期待や，不安をどのように感じているか，性差の観点から検討した。統計処理の結果は，以下の表に示すとおりである。

表 1-a 幼児の性差による面接結果

Q. 幼稚園で一番面白いことは何か		物理的・ 地理的条件	人的条件	活 動	合 計	
男	児	12	3	13	28	
女	児	13	0	16	29	
合	計	25	3	29	57	

Q. 幼稚園でもっとしたかったこと		物理的・ 地理的条件	人的条件	活 動	無	合 計
男	児	2	0	8	18	28
女	児	0	3	8	16	27
合	計	2	3	16	34	55

Q. 幼稚園に行きたくないと 思ったことはあったか		無	有	合 計
男	児	24	4	28
女	児	26	3	29
合	計	50	7	57

Q. 幼稚園に行きたくない理由		物理的・ 地理的条件	人的条件	活 動	そ の 他	合 計
男	児	2	0	1	1	4
女	児	1	2	0	2	5
合	計	3	2	1	3	9

Q. 幼稚園の先生はあなたを 理解しているか		はい	いいえ	わからない	合 計
男	児	19	2	7	28
女	児	22	0	7	29
合	計	41	2	14	57

Q. 早く一年生になりたいか		はい	いいえ	わからない	合 計
男	児	6	1	2	9
女	児	5	2	2	9
合	計	11	3	4	18

Q. 小学校はどんなところか		物理的・ 地理的条件	人的条件	活 動	わからない	合 計
男	児	6	0	16	6	28
女	児	5	1	17	6	29
合	計	11	1	33	12	57

Q. 小学校に入学したらどんなことをしたいか		物理的・ 地理的条件	人的条件	活 動	わからない	無	合 計
男	児	0	2	16	9	1	28
女	児	0	7	16	5	1	29
合	計	0	9	32	14	2	57

Q. 小学校に入学したらどんなふうになりたいか		物理的・ 地理的条件	人的条件	活 動	わからない	無	合 計
男	児	2	7	4	14	1	28
女	児	1	14	8	6	0	29
合	計	3	21	12	20	1	57

カイ 2 乗=8.19, df=4, p<.1

Q. 小学校入学に際して心配なことはないか		物理的・ 地理的条件	人的条件	活 動	無	わからない	合 計
男	児	1	2	8	13	4	28
女	児	2	3	2	19	3	29
合	計	3	5	10	32	7	57

Q. 勉強するってどんなことと思うか		教 科	頭がよく なること	わからない	その他	無	合 計
男	児	12	4	3	5	4	28
女	児	10	2	5	4	8	29
合	計	22	6	8	9	12	57

Q. 勉強するのは好きか、嫌いか		好 き	嫌 い	普 通	わからない	合 計
男	児	18	9	1	0	28
女	児	23	4	1	1	29
合	計	41	13	2	1	57

Q. 先生は、あなたにどんな1年生になって欲しいと思っているか		勉強する子	元気な子	優しい子	その他	わからない	合 計
男	児	2	2	1	3	20	28
女	児	3	1	4	7	14	29
合	計	5	3	5	10	34	57

Q. 小学校の先生がどんな先生だったら良いと思うか		性 別	内面的	外見的	その他	わからない	合 計
男	児	0	13	3	5	7	28
女	児	5	11	0	5	8	29
合	計	5	24	3	10	15	57

カイ 2 乗=8.22, df=4, P<.1

Q. 小学校に入学してどんな友だちができたらいいか		性別	内面的	外見的	その他	わからない	合計
男	児	0	10	2	12	4	28
女	児	1	12	1	13	2	29
合	計	1	22	3	25	6	57

Q. お父さんやお母さんはあなたにどんな1年生になって欲しいと思っているか		内面的	外見的	勉強	その他	わからない	合計
男	児	2	6	2	3	15	28
女	児	4	1	4	4	16	29
合	計	6	7	6	7	31	57

Q. 幼稚園と小学校の似ているところ(類似点)		物理的・地理的条件			人的条件			活動		
		平均値	N	標準偏差	平均値	N	標準偏差	平均値	N	標準偏差
男	児	1.1	28	1.2	4E-02	28	0.2	0.5	28	1.1
女	児	0.9	29	1.1	7E-02	29	0.3	0.3	29	0.6
合	計	1.0	57	1.2	5E-02	57	0.2	0.4	57	0.9
F検定	自由度			1.56			1.56			1.56
	F値			0.33			0.31			0.66
	有意水準			.57			.58			.42

Q. 幼稚園と小学校の違うところ(相違点)		物理的・地理的条件			人的条件			活動		
		平均値	N	標準偏差	平均値	N	標準偏差	平均値	N	標準偏差
男	児	1.1	28	1.4	0.0	28	0.0	0.6	28	0.8
女	児	0.7	29	0.9	7E-02	29	0.3	0.4	29	0.5
合	計	0.9	57	1.2	4E-02	57	0.2	0.5	57	0.7
F検定	自由度			1.56			1.56			1.56
	F値			1.46			2.00			0.46
	有意水準			.23			.16			.50

以上の結果から、男児と女児間に有意な傾向の見られた項目は、「小学校に入学してどんなふうになりたいか」と「小学校の先生がどんな先生だったらよいか」の2項目であった。「小学校に入学してどんなふうになりたいか」の項目では、男児が「わからない」と回答するものが多かったのに比べ、女児は男児よりも、人的条件や活動を挙げて、明瞭な目的を持っているものが多かった。また、「小学校の先生がどんな先生だったらよいか」の項目で、女児の方が男児よりも性別で判断する傾向にあった。しかもその全員が同性の女の先生と回答していた。そのほかの項目においては、有意差や傾向は見られなかった。

上述の結果から、この2群間には有意差は見られなかったが、男児よりも女児の方が、小学校に入学したら、「優しい」「しっかりした」「お姉さん」になりたいと考え、入学後の担任教師に対して同性を希望している傾向にあることがわかった。幼稚園の教師は女性が

多い。このことが女兒にとって、小学校での担任教諭に対する希望として同性を求める傾向にあるのかもしれない。

1-b 幼児の出生順位による検討

少子化という観点から、第1子であるかどかを分析の軸に捉えた。統計処理の結果は、以下の表に示すとおりである。

表 1-b 幼児の出生順位による面接結果

Q. 幼稚園で一番面白いことは何か	物理的・ 地理的条件	人的条件	活 動	合 計	
第 1 子	8	1	14	23	
第 2 子以降	17	2	15	34	
合 計	25	3	29	57	

Q. 幼稚園でもっとしたかったこと	物理的・ 地理的条件	人的条件	活 動	無	合 計
第 1 子	0	1	8	13	22
第 2 子以降	2	2	8	21	33
合 計	2	3	16	34	55

Q. 幼稚園に行きたくないと 思ったことはあったか	無	有	合 計	
第 1 子	19	4	23	
第 2 子以降	31	3	34	
合 計	50	7	57	

Q. 幼稚園に行きたくない理由	物理的・ 地理的条件	人的条件	活 動	そ の 他	合 計
第 1 子	2	1	0	2	5
第 2 子以降	1	1	1	1	4
合 計	3	2	1	3	9

Q. 幼稚園の先生はあなたを 理解しているか	はい	いいえ	わからない	合 計	
第 1 子	16	0	7	23	
第 2 子以降	25	2	7	34	
合 計	41	2	14	57	

Q. 早く一年生になりたいか	はい	いいえ	わからない	合計
第 1 子	2	2	3	7
第 2 子以降	9	1	1	11
合計	11	3	4	18

カイ 2 乗=5.31, df= 2, p<. 1

Q. 小学校はどんなところか	物理的・ 地理的条件	人的条件	活 動	わからない	合計
第 1 子	4	0	12	7	23
第 2 子以降	7	1	21	5	34
合計	11	1	33	12	57

Q. 小学校に入学したらどんなことをしたいか	物理的・ 地理的条件	人的条件	活 動	わからない	無	合計
第 1 子	0	3	13	7	0	23
第 2 子以降	0	6	19	7	2	34
合計	0	9	32	14	2	57

Q. 小学校に入学したらどんなふうになりたいか	物理的・ 地理的条件	人的条件	活 動	わからない	無	合計
第 1 子	0	9	2	12	0	23
第 2 子以降	3	12	10	8	1	34
合計	3	21	12	20	1	57

カイ 2 乗=10.47, df=4, <. 05

Q. 小学校入学に際して心配なことはないか	物理的・ 地理的条件	人的条件	活 動	無	わからない	合計
第 1 子	2	2	4	13	2	23
第 2 子以降	1	3	6	19	5	34
合計	3	5	10	32	7	57

Q. 勉強するってどんなことと思うか	教 科	頭がよく なること	その他	わからない	合計
第 1 子	5	4	4	10	23
第 2 子以降	17	2	4	11	34
合計	22	6	8	21	57

Q. 勉強するのは好きか, 嫌いか	好 き	嫌 い	普 通	わからない	合計
第 1 子	18	5	0	0	23
第 2 子以降	23	8	2	1	34
合計	41	13	2	1	57

Q. 先生は、あなたにどんな1年生にな って欲しいと思っているか	勉強する子	元気な子	優しい子	その他	わからない	合 計
第 1 子	2	1	3	3	14	23
第 2 子以降	3	2	2	7	20	34
合 計	5	3	5	10	34	57

Q. 小学校の先生がどんな先 生だったら良いと思うか	性 別	内面的	外見的	その他	わからない	合 計
第 1 子	2	9	0	4	8	23
第 2 子以降	3	15	3	6	7	34
合 計	5	24	3	10	15	57

Q. 小学校に入学してどんな 友だちができたらいいか	性 別	内面的	外見的	その他	わからない	合 計
第 1 子	0	6	1	11	5	23
第 2 子以降	1	16	2	14	1	34
合 計	1	22	3	25	6	57

Q. お父さんやお母さんはあな たにどんな1年生になって 欲しいと思っているか	内面的	外見的	勉 強	その他	わからない	合 計
第 1 子	4	1	2	3	13	23
第 2 子以降	2	6	4	4	18	34
合 計	6	7	6	7	31	57

Q. 幼稚園と小学校の似 ているところ(類似 点)	物理的・地理的条件			人的条件			活 動		
	平均値	N	標準 偏差	平均値	N	標準 偏差	平均値	N	標準 偏差
第 1 子	1.1	23	1.2	4E-02	23	0.2	0.3	23	0.6
第 2 子以降	1.0	34	1.2	6E-02	34	0.2	0.5	34	1.1
合 計	1.0	57	1.2	5E-02	57	0.2	0.4	57	0.9
F検定	自由度		1.56			1.56			
	F値		0.14			0.06	0.88		
	有意水準		.71			.80	.35		

Q. 幼稚園と小学校の違 うところ (相違点)	物理的・地理的条件			人的条件			活 動		
	平均値	N	標準 偏差	平均値	N	標準 偏差	平均値	N	標準 偏差
第 1 子	1.1	23	1.2	4E-02	23	0.2	0.4	23	0.5
第 2 子以 降	0.7	34	1.2	3E-02	34	0.2	0.6	34	0.8
合 計	0.9	57	1.2	4E-02	57	0.2	0.5	57	0.7
F検定	自由度		1,56			1,56			1,56
	F値		1.19			0.08			1.14
	有意水準		.28			.78			.29

以上の結果から、第1子と第2子以降の幼児間に有意差の見られた項目は、「小学校に入学してどんなふうになりたいか」の1項目であった。第1子の幼児群が「わからない」と回答するものが多かったのに比べ、第2子以降の幼児群は第1子群よりも、人的条件や活動を挙げて、明瞭な目的をもっているものが多かった。また、有意な傾向の見られた項目は、「早く1年生になりたい」の項目で、第2子以降の幼児群の方が第1子群よりも多く回答する傾向にあった。そのほかの項目においては、有意差や傾向は見られなかった。

第1子の方が第2子以降の幼児よりも小学校に対する不安が強いだらうと予想されたが、この2群間には全く有意差は見られなかった。また、第1子よりも第2子以降の幼児の方が、「早く1年生になりたい」と思い、入学後の希望を明確にもっていることがわかった。

上述の結果から、第2子以降の幼児の方が、小学校に関する様々な情報を得ており、小学校生活に対するイメージを広げやすく、小学校入学に対して肯定的に捉えているからであろうと考察される。

2. 小学校1年生の面接結果

2-a 小学1年生の性差に関する検討

小学校1年生の性別による面接結果から、男女間に有意差の見られた項目は「幼稚園と小学校の相違点」において、唯一みられた。男児の方が女児よりも活動における相違点を有意に多くあげていた。これは、男児の方が女児よりも、小学校において幼稚園の時とは異なった活動をより多く認識し、活動的しているのではないかと推測される。また、「先生はあなたにどんな1年生になってもらいたいと思っているか」の項目において、女児の方が男児よりも「優しい子」になって欲しいと担任は思っているだろうと考える傾向にあることがわかった。「女子は優しく」という先生の願望が、女子に強くイメージさせたと考えられる。

表2-a 小学校1年生の性差による面接結果

Q. 幼稚園と小学校の似 ているところ(類似 点)		物理的・地理的条件			人的条件			活 動		
		平均値	N	標準 偏差	平均値	N	標準 偏差	平均値	N	標準 偏差
男	児	0.7	59	0.9	0.2	59	0.4	0.4	59	0.5
女	児	0.5	58	0.7	0.2	58	0.4	0.4	58	0.6
合	計	0.6	117	0.8	0.2	117	0.4	0.4	117	0.5
F検定		自由度		1,116			1,116			1,116
		F値		1.29			0.00			0.17
		有意水準		.26			.97			.68

Q. 幼稚園と小学校の違 うところ(相違点)		物理的・地理的条件			人的条件			活 動		
		平均値	N	標準 偏差	平均値	N	標準 偏差	平均値	N	標準 偏差
男	児	0.7	59	1.2	7E-02	59	0.3	0.7	59	0.5
女	児	0.6	58	0.8	0.2	58	0.4	0.5	58	0.6
合	計	0.7	117	1.0	0.1	117	0.3	0.6	117	0.6
F検定		自由度		1,116			1,116			1,116
		F値		0.33			1.93			3.41
		有意水準		.57			.17			.07

Q. 思っていた通りの小学校 であるか(期待)		はい	いいえ	わからない (どちらでもない)	合 計
男	児	26	27	6	59
女	児	29	26	3	58
合	計	55	53	9	117

Q. 理解してくれる先生はど ちらか		幼稚園	小学校	わからない (どちらでもない)	合 計
男	児	11	27	21	59
女	児	14	21	23	58
合	計	25	48	44	117

Q. 先生は、あなたにどんな 1年生になって欲しいと 思っているか		勉強する子	元気な子	優しい子	その他	わからない	合 計
男	児	16	0	4	18	21	59
女	児	12	2	12	12	20	58
合	計	28	2	16	30	41	117

カイ2乗=7.79, df=4, p<.1

Q. 小学校入学に際して心配なことはなかったか		物理的・地理的条件	人的条件	活 動	無	わからない	合 計
男	児	7	13	12	26	1	59
女	児	10	20	13	15	0	58
合	計	17	33	25	41	1	117

2-b 小学1年生の出生順位による検討

表 2-b 小学校1年生の出生順位による面接結果

Q. 幼稚園と小学校の似ているところ (類似点)	物理的・地理的条件			人的条件			活 動		
	平均値	N	標準偏差	平均値	N	標準偏差	平均値	N	標準偏差
第 1 子	0.8	65	0.9	8E-02	65	0.3	0.4	65	0.6
第 2 子以降	0.4	52	0.5	0.3	52	0.5	0.4	52	0.5
合 計	0.6	117	0.8	0.2	117	0.4	0.4	117	0.5
F検定	自由度		1,116			1,116			1,116
	F値		7.82			7.71			0.01
	有意水準		.01			.01			.91

Q. 幼稚園と小学校の違うところ (相違点)	物理的・地理的条件			人的条件			活 動		
	平均値	N	標準偏差	平均値	N	標準偏差	平均値	N	標準偏差
第 1 子	0.9	65	1.1	0.1	65	0.4	0.5	65	0.6
第 2 子以降	0.5	52	0.8	8E-02	52	0.3	0.6	52	0.6
合 計	0.7	117	1.0	0.1	117	0.3	0.6	117	0.6
F検定	自由度		1,116			1,116			1,116
	F値		4.20			0.94			1.40
	有意水準		.04			.34			.24

Q. 思っていた通りの小学校であるか (期待)	はい	いいえ	わからない (どちらでもない)	合 計
第 1 子	31	30	4	65
第 2 子以降	24	23	5	52
合 計	55	53	9	117

Q. 理解してくれる先生はどちらか	幼稚園	小学校	わからない (どちらでもない)	合 計
第 1 子	14	25	26	65
第 2 子以降	11	23	18	52
合 計	25	48	44	117

Q. 先生は、あなたにどんな 1年生になって欲しいと 思っているか	勉強する子	元気な子	優しい子	その他	わからない	合計
第1子	17	0	9	19	20	65
第2子以降	11	2	7	11	21	52
合計	28	2	16	30	41	117

Q. 小学校入学に際して心配 なことはなかったか	物理的・ 地理的条件	人的条件	活動	無	わからない	合計
第1子	12	18	12	23	0	65
第2子以降	5	15	13	18	1	52
合計	17	33	25	41	1	117

小学1年生の出生順位による面接結果から、有意差の見られた項目は、幼稚園と小学校の類似点・相違点の項目であった。第1子の方が第2子よりも有意に多くあげていたのは、類似点の物理的・地理的条件と相違点の人的条件であった。他方、第2子の方が第1子よりも有意に多くあげていたのは、類似点における人的条件であった。これらの結果から、出生順位によって人的条件の認識の仕方が異なり、これが幼稚園から小学校への移行におけるポイントのように考えられる。

2-c 小学1年生の就学前保育の違いによる検討

本調査対象である小学校1年生は、小学校入学前に隣接の幼稚園出身児童とそれ以外の児童とが約半数ずつで構成されている。そこで、隣接の幼稚園出身であるか否かによる差異を検討した。その結果、質問項目のうち幼稚園と小学校の類似点における物理的・地理的条件と活動条件においてのみ有意差が見られた。すなわち、隣接幼稚園出身の児童は物理的・地理的条件を有意に多く言及し ($F=7.471$, $df=1/116$, $p<.01$)、これに対して、活動条件に関する言及は有意に少なかった ($F=5.179$, $df=1/116$, $p<.05$)。隣接しているという地理的条件から、物理的・地理的条件に関する情報を得る機会が多かったためと考えられる。一方、活動条件についての言及が少なかったのは、小学校の内容についての知識や経験が少ないのではないかと考えられる。あまりにも地理的に近いため、回りの大人達は活動内容までよく理解していると捉えていて、意識的に知識や経験を与える機会が少ないのではないかと考えられる。あるいは、隣接幼稚園出身児童にとって、幼稚園と小学校の活動があまりにも違い過ぎて類似点が思い浮かばなかったとも考えられる。

3. 幼稚園年長児と小学1年生の比較（横断）

幼稚園年長児と小学1年生の比較（横断）を行うために、表3には、幼稚園と小学校で実施した面接項目の中から、共通質問についての分析結果を示している。

表3 幼児と小学校1年生の性別および出生順位による結果の比較

Q. 幼稚園と小学校の似 ているところ(類似 点)	物理的・地理的条件			人的条件			活 動		
	平均値	N	標準 偏差	平均値	N	標準 偏差	平均値	N	標準 偏差
幼稚園年長児	1.0	57	1.2	5E-02	57	0.2	0.4	57	0.9
小学1年生	0.6	117	0.8	0.2	117	0.4	0.4	117	0.5
合 計	0.7	174	0.9	0.1	174	0.4	0.4	174	0.7
F検定	自由度		1,173			1,173			1,173
	F値		8.75			3.94			0.07
	有意水準		.01			.05			.80

Q. 幼稚園と小学校の違 うところ(相違点)	物理的・地理的条件			人的条件			活 動		
	平均値	N	標準 偏差	平均値	N	標準 偏差	平均値	N	標準 偏差
幼稚園年長児	0.9	57	1.2	4E-02	57	0.2	0.5	57	0.7
小学1年生	0.7	117	1.0	0.1	117	0.3	0.6	117	0.6
合 計	0.8	174	1.1	9E-02	174	0.3	0.5	174	0.6
F検定	自由度		1,173			1,173			1,173
	F値		1.13			2.46			0.31
	有意水準		.29			0.12			.58

Q. 先生は、あなたにどんな1年生 になって欲しいと思っているか	カテゴリー						合 計
	勉強する子	元気な子	優しい子	その他	わからない		
幼稚園年長児	5	3	5	10	34		57
小学1年生	28	2	16	30	41		117
合 計	33	5	21	40	75		174

カイ2乗=13.57, df=4, P<.01

Q. 小学校入学に際して心配なこ とはなかったか	カテゴリー						合 計
	物理的・ 地理的条件	人的条件	活 動	無	わからない		
幼稚園年長児	3	5	10	32	7		57
小学1年生	17	33	25	41	1		117
合 計	20	38	35	73	8		174

カイ2乗=24.72, df=4, P<.000

表3に示されるとおり、幼稚園と小学校の類似点における物理的・地理的条件と人的条件において、また「先生は、あなたにどんな1年生になって欲しいと思っているか」という担任の期待する1年生像および「小学校入学に際して心配なことはなかったか」という入学に対する不安の項目において、幼稚園と小学校1年生の2群間に有意差が見られた。

幼稚園と小学校の類似点における物理的・地理的条件では、幼稚園年長児が小学1年生よりも有意に多く言及し、一方、人的条件では、小学校1年生が幼稚園年長児よりも有意に多く言及していた。類似点の場合、物理的・地理的条件に関しては、視覚的に捉えられやすいため、幼稚園年長児が多く言及するが、人的条件は、実際に生活することによって捉えることのできる条件であるため、小学1年生の言及が多い結果になったと考えられる。

「先生は、あなたにどんな1年生になって欲しいと思っているか」という担任の期待する1年生像に対して、幼稚園年長児では約59.6%、小学校1年生では約35.0%が、ともに「わからない」をあげている。担任教師の期待する1年生像について、とくに幼児には理解しがたいことのようなのである。しかし、小学校1年生では第2位に「勉強する子」があがっており、この時期は、担任の期待する1年生像を具体的に考えられる過渡期であると考えられる。

「小学校入学に際して心配なことはなかったか」という入学に対する不安の項目において、幼稚園年長児は「無し」あるいは「わからない」が約68.4%、小学校1年生は35.9%とともに多いが、1年生では、具体的な不安項目もそれぞれ幼稚園年長児よりも有意に多くあがっており、1年生になると不安なことがらがより具体化してくると考えられる。中でも人的条件についての項目において2群間に大差が見られている。これは、実際に小学校生活を始める上での不安材料として大きく移行期の子どもに覆い被さっていることがうかがえる。

本報告は、幼稚園児と小学生が自らの移行をどのように感じているかについて面接法による聞き取りを行い、Bronfenbrennerの生態学的に発達と環境をどのように捉えるかという観点から分析したものである。Bronfenbrennerの観点によれば、小学生に関しては、マイクロシステムおよびメゾシステムの2つの層内における分析であった。しかし幼稚園児に関しては、マイクロシステム、メゾシステム、エクソシステムの3つの層にまたがること明らかになった。幼稚園児は、自分が未だ所属していない小学校について(エクソシステム)、女兒の方が男児よりも明確な希望を持つ傾向にあること、また、第2子の方が第1子よりも1年生に早くなりたいと希望する傾向にあった。さらに第2子の方が第1子よりも小学校に入学してからの明確な希望を有意に強く持っていることが明らかにされた。このように、性差や出生順位が、幼稚園から、エクソシステムである小学校への移行を考える際の要因になっていると考えられる。

要 約

幼稚園から小学校への移行に関して、移行する幼児・児童自身が移行についてどのように感じているかを明らかにするために、面接法により、幼稚園年長児57名および小学1年生117名に対して聞き取りがなされた。結果は、Bronfenbrennerの基準に筆者らの観点を付加した基準によって、カテゴリー分析により整理された。分析は、性差および出生順位の観点から検討された。その結果、以下のことが明らかにされた。

1. 幼稚園年長女兒の方が年長男児に比較して、小学校入学に関して、有意に強い明確な目標を持っていた。
2. 小学1年生の場合、性差に関して有意差のみられた項目は、幼稚園と小学校の相違点に関する項目であり、活動カテゴリーにおいてのみ男児が女兒よりも多く言及していた。
3. 小学1年生の出生順位に関して、有意差のみられた項目は、幼稚園と小学校の類似点および相違点に関する項目であった。第1子の方が第2子よりも類似点においては、物理的・地理的条件を多く言及していた。相違点に関しては、第1子の方が第

2子よりも人的条件を有意により多く言及していた。一方、第2子の方が、第1子よりも有意に多く言及していたのは、類似点における人的条件であった。

4. 面接結果について、幼稚園年長児と小学1年生の横断的比較をした場合、以下のすべての項目について、小学1年生の方が幼稚園年長児よりも有意に多く明確な言及をしていた。すなわち、入学に際しての不安、担任教師の期待する1年生像、幼稚園と小学校の類似点相違点である。

引用文献

- Bronfenbrenner, U. The Ecology of Human Development. Harvard Univ. Press. 1979 (「人間発達の生態学」磯貝芳郎・福富 護 訳, 川島書店, 1996.)
- 飯島婦佐子 生活をつくる子供たち 倉橋惣三理論再考, フレーベル館, 1990.
- 進野智子・小林小夜子 幼稚園から小学校への移行に関する研究I, 日本発達心理学会第9回大会 発表論文集, 75, 1998.
- 小林小夜子・進野智子 幼稚園から小学校への移行に関する研究II, 日本教育心理学会第40回総会 発表論文集, 94, 1998.
- 小林小夜子・進野智子 幼稚園から小学校への移行に関する研究IV, 日本発達心理学会第10回大会 発表論文集, 529, 1999.
- 進野智子・小林小夜子 幼稚園から小学校への移行に関する発達心理学的研究I, 長崎大学教育学部紀要—教育科学—, No56, 64-70, 1999 a.
- 進野智子・小林小夜子 幼稚園から小学校への移行に関する発達心理学的研究II, 長崎大学教育学部紀要—教育科学—, No57, 56-63, 1999 b.

資料

幼稚園児面接質問項目

「先生は、今からあなたに幼稚園のことを尋ねようと思います。思ったことは何でもいいからたくさん話してください。」

1. ○○君・ちゃんは、**組ですね。附属幼稚園は、面白いですか。どんなところが面白いですか。3つ教えてください。
2. 幼稚園でもっとこんなことをしたかったなということはありませんか。それはどんなこと?
3. 幼稚園に行きたくないと考えたことはありませんか。
それはどうして? どんな時?
4. 幼稚園の○○先生は、あなたのことをよくわかってくれていると思いますか。
5. もうすぐ小学校1年生になるね。附属小学校へ行くんでしょ。早く1年生になりたいですか? 小学校ってどんなところだと思いますか?
6. 小学校に入学したらどんなことをしたいと思いますか。
7. 小学校に入学したらどんなふうになりたいですか。
8. 小学校に入学するんだけど、何か心配なことはありますか。
9. 幼稚園と小学校はどんなところが似ていると思いますか。
10. 幼稚園と小学校の違うところは何だと思いますか。
11. 小学校に入学するとお勉強が始まりますね、お勉強するってどんなことと思いますか。
お勉強って好き? 嫌い? 嫌いなのはなぜ? (理由について明確にする)
12. ○○先生はあなたにどんな1年生になって欲しいと思いますか。

あなたも先生と同じように思いますか？

13. 小学校の先生がどんな先生だったらよいと思いますか。
14. 小学校に入学したら、どんなお友だちができたらいですか。
15. お父さんやお母さんは、あなたにどんな1年生になって欲しいと思っていますか。

小学生面接質問項目

「先生は、今からあなたに小学校のことを尋ねようと思います。思ったことは何でもいいからたくさん話してください」

1. まず、幼稚園と小学校の似ているところと違うところを教えてください。
 - * 「似ているところは何ですか？」 子どもの答え「A」
 - 「Aについてどう思いますか。とても好きですか、まあまあですか、それとも好きじゃない(または嫌い)ですか」子どもの3段階評価の理由を尋ねる。
 - * 「次に違うところは何ですか？」 子どもの答え「B」
 - 「Bについてどう思いますか。とても好きですか、まあまあですか、それとも好きじゃないです(または嫌い)ですか」子どもの3段階評価の理由を尋ねる。
2. 小学校に入学してみて、あなたが幼稚園の時に思っていた通りの小学校でしたか？
 - 「はい」の場合、「何処が」理由を尋ねる。
 - 「いいえ」の場合、「何処が」理由を尋ねる。
 - 「わからない」の場合、「何処が」理由を尋ねる。
3. 幼稚園の先生と小学校の先生とでは、どちらの先生の方が、あなたのことをよくわかってくれていると思いますか。
 - 「幼稚園」の場合、「何故、それはどういうところですか」
 - 「小学校」の場合、「何故、それはどういうところですか」
 - さらに
 - 「お勉強を教えてくれているときの先生は好きですか」
 - 「お勉強じゃないときの先生は好きですか」
4. ○○先生は、あなたにどんな子になって欲しいと思っていますか。
 - 「それは、どうしてですか」
 - 「先生がそう思っていることについて、あなたも先生と同じように思いますか」
5. あなたが1年生になるとき、心配なことはありませんでしたか。
6. お父さんやお母さんは幼稚園のことを何とっていますか。
 - お父さんやお母さんはどうしてそういっていると思いますか？
 - お父さんやお母さんがそんなに言うことについてあなたはどのように思っているの？